

令和 2 年 6 月 12 日現在

機関番号：32663

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K20978

研究課題名(和文)18世紀イギリス経済思想における戦争論 パーク、スミス、タッカーを中心に

研究課題名(英文) Ideas of War in British Economic Thought in the Eighteenth Century

研究代表者

佐藤 空 (Sato, Sora)

東洋大学・経済学部・准教授

研究者番号：60749307

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、国内外でこれまで十分に注目されていなかったパーク、スミスらの歴史叙述、戦争論、経済論の連関を明らかにした。パークの思想は、ヨーロッパの過去の宗教紛争を念頭に置いた上で、政治社会の不安定化を危惧するとともに、宗教的寛容などの自由を促進しようとするものだった。これは国や地域ごとの生活様式や思想の多様性を是認しながら社会秩序の安定化を目指す思想であり、過去の宗教戦争に対する反省とともに自由な文明社会を構築しようとした18世紀啓蒙主義の特徴を共有している。自由主義的といわれてきたパークの経済思想もそついった啓蒙主義の思想潮流とともに理解されるべきであることが今回の研究で明確になった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

エドモンド・パークは「保守主義の祖」と呼ばれる18世紀イギリスの政治家・思想家であり、近年では歴史学や思想史の分野で国際的に研究が進んでいる。本研究が主要な対象の一つとした歴史叙述や戦争論は、パークの政治・経済思想の解明にとって重要であるが、長年にわたって研究が進められていなかった。歴史叙述や戦争論を18世紀の啓蒙思想に即しながら詳細に分析したことで、パーク思想において重要とされる「生活様式」論の重要性がこれまでにない視点から明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The present research has revealed the relationship between historical thought, ideas on war, economic thinking advanced by Burke, Smith and others. Burke was highly critical of religious wars in Europe in the previous centuries and wished to prevent similar catastrophic events in his age. He also aimed to establish political stability and promote religious toleration in his age. This attitude towards society should be regarded as a version of the Enlightenment thought in the eighteenth century. Burke's economic thought should be considered as an expression of this type of thought in the early modern period.

研究分野：社会思想史、経済思想史

キーワード：エドモンド・パーク 政治経済学 啓蒙主義 保守主義

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

大学院での研究では、18世紀のイギリスの政治家・思想家エドモンド・バーク(1730-1797)の歴史思想と18世紀啓蒙思想との関係性について探究した。本研究はその延長線上に位置するものであるが、経済学史・経済思想および戦争論などの視点を加えることで、いわゆる「保守主義の起源」と「経済学の生誕」との接点を探究しようとする。日本の経済学史・経済思想研究では、「経済学の生誕」というテーマは長年にわたって探究されてきた主題である。しかしながら、政治思想的なテーマである保守主義との接点については、これまで研究が進んでいなかった。背景には、保守思想の学問的な探究が日本では戦後、立ち遅れていたことがある。しかしながら、冷戦以後の日本の政界、学会、言論では、保守主義がそれまでよりも肯定的に捉えられることが増えており、「右傾化」と呼ばれる現象も起きている。また、より一般的に言って、保守思想と経済思想の関連は、政界や言論空間で様々な形で語られているが、両者の関係は必ずしも歴史的に分析されていなかった。本研究は、そのような問題を歴史的な観点から調査する一つの形態としても捉えられる。

2. 研究の目的

エドモンド・バークの政治経済思想を歴史叙述や戦争論との関係で解明しつつ、「保守主義の起源」といわれるバーク思想とアダム・スミスなどが構築した18世紀イギリスの経済思想との歴史的・思想的な接点を探ることが中心的な研究目標である。

3. 研究の方法

近年の英語圏の研究では、バークを「保守主義の祖」とする従来の見方に懐疑的な解釈が増えている。それは歴史的な厳密性を適用できないという判断に基づくものであった。本研究も歴史学的・思想史的研究手法を採用しており、このような近年の解釈傾向に基本的には同意する立場を採っている。ただし、保守主義の歴史的な説明をする際にバークが言及されることは今後も避けられないこと、また、専門家以外の関心が保守主義の歴史的な説明に向けられがちであるという事情を考慮して、本研究では歴史学的アプローチを採用した上で「保守主義の起源」という言葉を依然として用いながら問題設定を行なった。それは歴史学的な分析をした上で、それが保守主義的な思想の歴史的展開にどのようなインプリケーションを持ちうるか、いわば間接的に考察するという手法である。バーク思想を単純に「保守主義の起源」とすることは研究上の誤謬を犯しかねないが、厳密な歴史研究を実行しながらも、そのような特徴づけの意味をより明確にしようと試みた。

思想史研究として、文献読解や史料調査が中心となる。バークの著作集を読解・分析することは当然であるが、未刊行の草稿史料も多数存在することから、英国図書館やイギリス・ノーサンプトンシャー文書館での史料調査も必要となる。実際、研究期間中に複数回、海外での史料調査を実施した。また、思想史研究では、歴史背景や思想の影響関係を詳細に分析することが不可欠であるから、政治史や経済史に関する文献、さらに、同時代人の諸作品を読解しながら、バーク思想との関係性についても考察した。とりわけ、本研究では、バークと同時代の優れた経済思想家であったアダム・スミスやジョサイア・タッカーとの思想関係に注目していることから、スミ

スとタッカーの著作を詳細に分析した。

研究発表の過程として、国際学会での報告を複数回、実施した。また、国際学会に参加する以前から海外の研究者との交流を重視し、共同でセッションを組織したり、アジアの若手研究者を集めたシンポジウムを他の国内研究者と組織した。このような試みは研究に対する様々なフィードバックを得る機会を作り、今後の共同研究に向けた交流や具体的な計画を生み出すためにも重要であった。

4. 研究成果

本研究は、パークの経済思想をその歴史叙述や戦争論と結びつけて分析することで、これまでの研究史にないユニークな成果を挙げることに成功した。パークの歴史叙述は、そのいわゆる「保守主義」と密接な関係にあると長年、想定されてきたが、包括的な研究は国内外で存在しなかった。また、1970年代よりイギリスの政治思想史の分野では、J.G.A. ポーコックの研究に刺激されて、近世および啓蒙主義における歴史叙述の重要性が認識されてきた。18世紀イギリスの思想史研究では、スコットランド啓蒙主義の存在が認識されるようになり、社会科学の一分野としての歴史思想も注目されている。パークは、デーヴィッド・ヒューム、アダム・スミス、ウィリアム・ロバートソン、アダム・ファergusonといったスコットランド啓蒙の中心人物から思想的に影響を受けており、その政治思想上の関係性はポーコックらによって1980年代に指摘されていた。しかしながら、歴史叙述における関係性等については十分に分析されていなかった。本研究はパークの歴史叙述を包括的に分析しながらも、ロバートソン、ヒューム、スミスらの歴史叙述との類似あるいは相違を浮き彫りにしている。

本研究は、歴史叙述についての分析を経済論や戦争論と結びつけながら考察しており、その点にも研究の独創性がある。パークが「保守主義の祖」と呼ばれる一方で、同時代人のアダム・スミスは「近代経済学の祖」と呼ばれてきた。しかしながら、少なくともパークの場合、そのような評価は、近年の精緻な歴史研究によって大きな見直しを迫られている。また、自由主義的なパークの経済思想はしばしばスミスの経済思想に近いと考えられてきた。だが、両者の経済思想は、歴史叙述や戦争論を考慮に入れるならば、類似点とともに大きな相違点が浮かび上がってくる。

パークの経済思想もスミスの経済思想も、財産権の保護などの「正義」が確立された社会における人びとの自由と勤労の重要性に着目している点では同じである。ただし、近代ヨーロッパでそのような社会がどのように登場したか、その歴史的過程の説明が異なる。スミスはヒュームらとともに封建制の崩壊と絶対王政の登場を重要な契機として捉えている。パークの場合には、中世以来の騎士道やキリスト教による習俗の変革を重要視する。これらの点は、彼らの戦争論とも関わっているところが重要である。スミスは戦争を繰り返しながら、貿易規制なども是とする重商主義的な政策を批判したが、パークはそれをスミスほど批判しなかった。これはパークの経済思想が重商主義的だったというよりも、着眼点の相違として把握できる。パークは国制や社会の不安定化が招く経済の停滞を懸念していたのであり、イギリスの場合では名誉革命体制の維持を何よりも重要視していた。パークは16-17世紀の宗教戦争の再来を恐れたが、重商主義戦争に関しては、それが政治社会を根本的に不安定するとは考えていなかった。スミスは国債の累積に対する強い懸念を除けば、18世紀における国制と社会の安定の問題に注力せず、貿易や国家財政といった経済部門により注意を向けながら自らの経済思想を展開した。

本研究は、国内外でこれまで十分に注目されていなかったパークやスミスらの歴史叙述、戦争論、経済論の連関を以上のような議論を展開しながら明らかにした。後世、「保守主義」と呼ば

れることになったパークの思想は、ヨーロッパの過去の宗教紛争を念頭に置いた上で、政治社会の不安定化を危惧するとともに、宗教的寛容などの自由を促進しようとするものだった。これは国や地域ごとの生活様式や思想の多様性を是認しながら社会秩序の安定化を目指す思想であり、過去の宗教戦争に対する反省とともに自由な文明社会を構築しようとした 18 世紀啓蒙主義を共有していると思なすことができる。自由主義的といわれてきたパークの経済思想もそういった啓蒙主義の思想潮流とともに理解されるべきであり、そのことが今回の研究でこれまでよりも明確になった。

2016 年度からの研究の中で最大の成果は、2017 年 11 月（形式的な出版年は 2018 年）に出版したエドモンド・パークの歴史叙述に関する単著である。また、同じ 2017 年には、二つの論文を収録したパークに関する共著も出版した。また、海外での史料調査や学会報告なども複数回にわたって実施している（2016 年 6 月、アメリカの経済学史学会 [History of Economics Society, Duke University] にて研究報告。2019 年 7 月のイギリス・エディンバラにて国際 18 世紀学会で研究報告。2017 年 2 月、イギリス・ノーサンプトンシャー文書館、英国図書館およびエディンバラ大学図書館にて資料調査。2017 年 8 月、ロンドンの英国図書館とノーサンプトンシャー文書館で 18 世紀イギリス政治史・思想史に関する史料調査を実施）。その他、国内での研究報告の実施や書評の執筆が複数ある。全体として当初の目的に沿う形で研究を実施できたが、成果はまだ一部しか公刊されていないため、次年度以降に残りの成果を公刊できるよう尽力したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 佐藤空	4. 巻 early view
2. 論文標題 Book Review: The enduring Japanese business culture and gender inequality	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Political Quarterly	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/1467-923X.12502	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤空	4. 巻 58
2. 論文標題 征服と交流の文明社会史 - 初期バークと近世ブリテンにおける歴史叙述の系譜	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『経済学史研究』（経済学史学会）	6. 最初と最後の頁 49-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sora Sato	4. 巻 27
2. 論文標題 Book Review: Daniel I. O' Neill, Edmund Burke and the conservative logic of empire	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Intellectual History Review	6. 最初と最後の頁 277-279
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 佐藤空
2. 発表標題 Edmund Burke as Historian
3. 学会等名 バーク研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤空
2. 発表標題 Edmund Burke and "Jealousy of Trade"
3. 学会等名 Political Economy Tokyo Seminar
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤空
2. 発表標題 エドマンド・パークの経済思想を再考する：自由市場・社会秩序・戦争
3. 学会等名 経済学史学会第80回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 佐藤空
2. 発表標題 エドマンド・パークの経済思想を再考する 自由市場・社会秩序・戦争
3. 学会等名 第245回 「歴史と人間」研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sora Sato
2. 発表標題 Chains of Order, War and Spirit: Rethinking Edmund Burke ' s Political Economy
3. 学会等名 43rd Annual Meetings of the History of Economics Society (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 佐藤空	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 281
3. 書名 Edmund Burke as Historian: War, Order and Civilisation	

1. 著者名 中澤信彦・桑島秀樹（編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 314
3. 書名 バーク読本： 保守主義の父 再考のために	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----